慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.10/11 (1960. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19601101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1960年　10, 11月合併号

論　説

設備規模と市場競争……大熊一郎 1
——過剰能力説の展開——

フランク社会における国家化と封建化の競合……宇尾野久 13

「転形問題」について……持丸悦朗 28

資　料

顕現的選好の理論と積分可能性の問題……神谷伝造 40
——消費者行動論の基礎をめぐって——

書評・新刊紹介

野村兼太郎博士追悼

〔書評〕三木興吉郎編「阿波藍譜」……野村兼太郎(遺稿) 83

野村教授の急逝を悲しむ……小島栄次 85

野村兼太郎博士年譜及び著作目録……86

野村先生の哲学……石坂巌 128

イギリス経済史研究と野村先生……高村象平 138

日本経済史学界における野村教授の業績……速水融 144

日本経済思想史研究を回顧して……島崎隆夫 153

大垣藩領美濃国本巣郡神海村の戸口統計……野村研究会 神海村共同研究班 166
——延宝二年より明治五年まで——

53巻10,11号

昭和25年10月24日 第三種郵便物認可
昭和26年2月13日 国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和35年11月1日 発行（毎月1日発行）

三田学会雜誌　昭和三十五年九月号　定価 金九〇円（八送料）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 53, No. 9　September, 1960

CONTENTS

"The Affluent Society" and Three Propositions of Welfare Economics ..... *Y. Chigusa* page 1

The Inflow of the International Long- and Short-Term Capital into Japan ..... *E. Ōmiya* 18

G. D. H. Cole, His Life and Works ..... *K. Iida* 39

"Métairie," its Definition ..... *K. Watanabe* 49

Book Reviews

The Mechanics' Institute of Lancashire and Yorkshire before 1851, by Mabel Tylecote ..... *K. Iida* 56

Small Business in the Period of Monopoly Capitalism, by Nobuharu Tatsumi ..... *I. Kitahara* 60

A Study of Bentham's Utilitarian Theory, by Takao Yamada ..... *A. Shirai* 65

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai, Keio University, Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

設備規模と市場競争

——過剰能力説の展開——

大熊一郎

一

不完全競争論における（静態的）過剰能力 excess capacity の問題は、チェムバレンの命題をめぐって二つの方向に議論を進展せしめた。ひとつは過剰能力そのものの定義を、チェムバレンの当初の命題のあいまいさから脱却させようとする方向である。この種の議論は厚生分析的見地から行なわれ、すでに確立された古典的議論とみなしてよい。(一)

もうひとつの議論は過剰能力の存在を説明するところの不完全競争のプロセスに関する論議である。チェムバレンによれば、過剰能力を存在せしめるごとき不完全競争のプロセスは、㈠産業における新企業の参加自由 free entry と、㈡企業者の採択する非攻撃的 non-aggressive 価格政策とにもとづくものである。(二) すなわち、過剰能力論の中には企業の相互依存的行動についての特定の仮定が含まれているわけである。したがって、企業行動に関する仮定をいろいろに設定することによって、不完全競争のプロセスにもヴァラエティが与えられるはずである。

上記二つの仮定のうち特に後者については、すでに一九三五年カルドアの "Market Imperfection and Excess Capacity"(三) があり、過剰能力の程度が潜在的競争 potential competition に依存するという仮説が発表された。カルドアの論文は不完全競争の仮定を明らかにすることにおいて、きわめてすぐれたものであるが、特に潜在的競争問題はその後およそ一五年を経て、ハロッドによってふたたび蒸しかえされた。(四) ハロッドは自らカルドアの議論の系列であることを認めて、企業者が自己のマーケットを維持するための低価格・低利潤政策を採る以上、逓降的個別需要曲線が過剰能力の存在を説明する（十分）条件でないことを主張する。ハロッドの主張は一方でフル・コスト・プリンシプルを確認するものであるが、他方において、自己のマーケットを維持し新企業の参加を阻止できる低利潤が存在することを意味している上で重要である。

書評

大河内一男・隼山京共著『家庭経済学』……中鉢正美 61

アーサー・ブリッグス・ジョン・サヴィル共編『労働運動史論』
—G.D.H. コールの想い出のために—……飯田鼎 63

『講座・中小企業・第一巻—歴史と本質—』……正田健一郎 68

『講座・中小企業・第二巻—独占資本と中小企業—』…戸木田嘉久 71

新刊紹介

家永三郎著『植木枝盛研究』……飯田鼎 77

柴田三千雄著『フランス絶対王政論』……渡辺国広 77

農民運動研究会編著『農民運動の基本問題』……常盤政治 78

労働省賃金調査課編著『日本の賃金構造』……井村喜代子 79

ソ連邦国立政治文献出版所編・日本共産党中央委員会宣伝教育部訳『レーニン伝』I……野地洋行 80